



「新会長就任挨拶」
横須賀水交會会長 長崎嘉徳



会員の皆様には平素から横須賀水交會の活動にご尽力頂きまして厚く御礼申し上げます。
この度、会長の職を仰せつかりました長崎です。微力ではありますが会の活動に力を尽くして参りたいと存じます。会長就任に当たり一言ご挨拶を申し上げます。
水交會の主たる事業目的には慰霊・顕彰、海軍の良き伝統の継承、海上自衛隊に対する支援、会員相互の親睦・相互啓発があります。水交

會の困って来るところの理念に今一度思いを致し会の活動に望んで参りたいと思う次第であります。

現在の我が国の平和、繁栄を考える時、先人の遺徳を風化させる事なく尊敬と感謝を捧げ慰霊 顕彰に努めて行きたいと思っております。地元横須賀では市内大津町にあります馬門山海軍墓地墓前祭が今年も厳粛に執り行われ横須賀水交會からも三十名近くの会員が参列しました。この墓前際も将来は諸団体会員の高齢化もあり横須賀水交會が中心的な役割をしていかなければならないと考える次第であります。

現下の海上自衛隊を取り巻く世論は厳しいものがあります。イージス艦の秘密漏洩事案、イージス艦の衝突事故等の報道が防衛省守屋前事務次官の破廉恥極まりない不祥事によって一気にヒートアップした感がありました。また彼の不祥事

発行 平成20年7月18日
編集 横須賀水交會事務局

によって安全保障上の問題が政局に利用されテロ特措法の継続中断、これによるインド洋派遣艦艇の任務中途による帰国は海上自衛隊員の誇りを微塵にも碎いたものであります。このような苦境時においてこそ我々水交會会員が一同となって海上自衛隊の真の心の支えとなつてあげたいと思う次第であります。

イージス艦の衝突事故で舞鶴が母港の「あたご」が、海外からの長期航海の後でもあるにもかかわらず全乗員が、家族の待つ舞鶴に帰る事が出来ないばかりか上陸さえも許可されずに長期間横須賀に留め置かれていた時、横須賀水交會は激励品を艦に届け隊員を元気づける事としましたが個人で激励の手紙を送っている横須賀水交會会員がすでにいる事を知り、これに勝る心の通った力強い支えはないのではなからうかと感服した次第であります。海上自衛隊に対する各種支援を今後とも充実して行きたいと思

横須賀水交會主要行事予定

11月までの主要行事予定は、次のとおりです。多くの会員の参加をお願いします。(計画中はホームページで確認して下さい。)

1 理事会

(1) 期日 8月9日(土)

1400~1700

(2) 場所 横監(細部未定)

2 防衛諸団体合同夏期防衛講座

(1) 期日 8月23日(土)

講話 1530~1730

懇親会 1745~1900

(2) 場所 県立健康福祉大学

(3) 講師 日本戦略研究フォーラム会長(アサヒビール名誉顧問) 中條 隆徳氏

(4) 演題 「戦後日本人の五つの忘れ物」

忘れ物

3 部隊研修

10月(計画中)

4 第17回ゴルフ大会

10月(計画中)

うところでありませう。

ソニーを創業した森田昭夫の曾祖父「命祺」は明治中期、私財を投じて「鈴溪義塾」をつくり後世各界で

活躍した人を輩出しており、彼は「恩は後世のためになることをして返せ。大人たちに返す必要はない」と諭したと伝えられております。心する所でありまして会の事業に当たっては先ず「世の為、人の為」を考えて行きたいと肝に銘じている所であります。

横須賀水交会は今にそのような仲間が集まって事業が推進、拡充されて来ているのであって将来に互つては更に素晴らしい同志が一同に集まり、地域に根差した活力溢れる中核的な団体を目指して行かなければならないと思っております。今後とも会員皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。挨拶と致します。

平成20年度定期総会開催

4月18日(金)よこすか平安閣において平成20年度定期総会を開催した。

土井理事の司会により、物故者に黙祷をささげた後、会則の規定により佃会長を議長として、3つの議案について審議が行わ

れ、いずれも賛成多数で了承された。

その概要は次のとおりである。①19年度の事業及び決算報告に



おいては、39名の新会員があり、667名の会員数であること、また、各事業も計画どおり実施され、順調に推移したことが報告された。②新役員の選任については、佃会長が顧問、長崎副会長が会長に、本多理事長が副会長、土井理事が理事長に就任したほか、新たに13名の理事が選任されるなど、長崎新体制での発足となった。③20年度事業計画及び予算については、新たな事業として、婦人部の設立を計画し、女性の力を結集し会の充実を図ることとされたほか、例年どおりの事業及び予算が確保された。

審議に引続き、水交会本部が推進している「公益法人化」について、本部の夏川理事長から

明を受けた。水交会としては、海軍戦没者の慰霊顕彰・遺族援護」「海軍の伝統精神の継承」「海自への協力支援」「会員互の啓発親睦扶助」の4つをインパクトとして活動し、もつ平和に寄与する財団としての交会の性格を変えることなく、益法人化の認定を目指すことを基本方針としていることなど、今後のスケジュール等を含めて、進捗状況が説明された。その後一般討議において、公益法人に対する活発な質疑が行われ、関心の高さを示した。



最後に、新旧役員を紹介を行った後、水交会林崎会長(夏川理事長代理)より佃前会長へ感謝状の贈呈、長崎新会長へ会長委嘱の伝達が行われ、成功裏に総会を終了した。休憩の後、「海上自衛隊の現状」

と題して横須賀地方総監半田海将による講演会が行われた。



半田総監からは、海幕教育課長・人事教育部長、幹部候補生学校長等の教育分野での経歴から、「海上自衛隊の教育」を中心に話を頂いた。海上自衛隊には年間3千名弱の自衛官(幹部候補生を含む。)が入隊しており、教育は心(訓育)・技(技能)・体(体育)について行っているが、とりわけ、「使命感を植付ける」心の教育を最も重要視していることが述べられた。また、勤務環境の厳しさから艦艇勤務の希望者が少ないなど海上自衛隊の問題点などのほか、一連の海上自衛隊の不祥事に対し、海上自衛隊は改革委員会を立ち上げて

抜本的な内部の見直しを行って
いること、また新聞論調に見ら
れるような批判的／好意的見方
についていずれも正しい部分が
あり、防衛省だけでは解決でき
ない問題もあり、国民レベルで
の議論が必要であることなど、
興味深い内容であった。

講演終了後会場を移し、蒲谷
横須賀市長など一般来賓、香田
自衛艦隊司令官等部隊指揮官・
先任伍長等、多数の来賓の臨席
を得て、懇親会が開始された。



長崎新会長の力強い所信表明
の挨拶に続いて、蒲谷市長から
横須賀水交会に対する熱い期待

のこもった祝辞、また、香田司
令官からは海上自衛隊への支援
への謝辞と不祥事を乗り越えて
大きく発展するとの誓い表明が
なされた後、来賓紹介、祝電披
露へと進み、そして、半田総監
の美声による音頭で高らかに乾
杯し、懇談に入った。会場のあ
ちこちに再会と交流の輪が広が
ったが、竹口第2術科学校長の
発声による万歳三唱をもって、
名残惜しくも散会した。

(岩永理事 記)

練習艦隊入港を歓迎

4月1日(火)練習艦隊(司令官
井上 力海将補、練習艦かしま、あ
さぎり、護衛艦うみぎり)が桜花満
開の横須賀吉倉港に入港した。近海
練習航海として、3月20日江田内
発、大阪、大湊を経て横須賀に入港
したものであり、同艦隊には第58
期一般幹部候補生課程終了者17
5名(うちタイ王国留学生1名、女
性15名)を含む約720名が乗艦
しているとのことであった。
澄み渡った青空の下、岸壁では半

田横須賀地方総監以下の多くの現
役隊員、山口横須賀市議会議長を始
めとする地元及び各種支援団体関
係者等が多数出迎えた。横須賀水交



会は、福
田、海野
両顧問、
佃会長
以下多
くの会
員が参
列し、自
衛艦旗
の小旗
を振っ

て歓迎の意を表した。

音楽隊の演奏の中、「かしま」と
「あさぎり」が出船で係留を完了し
たところで歓迎式典が開始された。
式典は、山口市議会議長の歓迎の辞、
同議長及び佃横須賀水交會会長等
からの花束贈呈、井上練習艦隊司令
官挨拶と厳粛な中にも和やかに進
行した。

同日、市内において、横須賀市、
横須賀市議会、横須賀防衛協会、横
須賀商工会議所そして海上自衛隊
横須賀地方総監部の共催で、練習艦



隊壮行会が実施され、横須賀水交會
からも、佃会長以下多数の会員が参
加し、練習艦隊の横須賀入港を歓迎
し、勇躍壮途に就く同艦隊を激励し
た。

壮行会に引き続き、横須賀水交會
主催で、練習艦隊歓迎夕食会を開催
司令官、各艦長そして先任伍長等を
招待し、その労をねぎらった。

今後、練習艦隊は4月6日に東京
(晴海)に回航し、同15日外洋練
習航海(南米・欧州方面世界一周)
に鹿島立ちする予定であるが、15

8日間、総航程3万1千マイル余と例年に比べ長期間の航海になるようである。

安全なる航海を心から祈るとともに、海上自衛隊の21世紀を背負う幹部自衛官をしつかり育てていただきたいと願うものである。

(田口理事記)

自衛艦隊・横地隊先任伍長激励

4月7日、自衛艦

隊先任伍長 下湯瀬 健徳 曹長及び横須賀 地方隊先任伍長 西 司 曹長へ水交会から

の激励品を横須賀水交会佃会長から贈呈しました。それぞれ、香田自衛艦隊司令官、半田横須賀地方総監 同席のもとで行われ、先任伍長を激励する 場面となりました。(本多副会長記)



護衛艦「あたご」へ激励品贈呈

護衛艦「あたご」が2月19日の

事故後、長期にわたり、横須賀港に係留されている状況に鑑み、4月16日、横須賀水交会として、ささやかながら乗組員各位へ清涼飲料代程度ですが激励品を贈呈しました。

実況検分の前であり、乗艦しての贈呈はままならず、横須賀上級海曹会 菊池曹長を通して、私たちの気持ちを伝えてもらいました。早速、当日午後、艦長及び先任伍長から事務所へお礼の電話がありました。

(本多副会長記)

護衛艦「いかづち」出港、見送り

4月20日、補給支援特措法に基づきインド洋方面における、各国海軍に対する給油活動を実施するため、第2護衛隊司令 筧 豊隆1佐が派遣部隊指揮官として、護衛艦「いかづち」(艦長 村田耕一2佐・乗員約190名)が横須賀を出港した。補給艦「ましゅう」(定係港舞鶴20日出港)と洋上で合同し任務行動に赴く。両艦は、護衛艦「むらさめ」補給艦「おうみ」と現地で交代する予定である。秋元防衛大臣

政務官、蒲谷横須賀市長、防衛関連団体等の長などが出港行事に参列され、盛大な出港行事が行われた。半田横須賀地方総監、高嶋護衛艦隊司令官、加藤海上幕僚副長他多くの指揮官、隊員及び家族とともに、長崎横須賀水交会会長以下多数の会員で見送った。



帽振れにあわせ、自衛艦旗の小旗、水交会旗が振られ、超長一声の汽笛が響く出港であった。

「いかづち」にとって任務行動は、イラク特措法による行動後、3年振りで3回目の行動であり、ご健闘を祈るものである。任務行動を通じて、各国海軍のゆるぎない信頼をさらに強めてもらいたい。

出港前、士官室において、水交会からの激励品を長崎会長から贈呈した。

国際テ

ロの根絶と世界平和のため、 国益のため、はるか遠いインド洋において、 厳しい環境下、長期間に渡り、目立たない地味な行動に従事することに対し、深甚の敬意を払うものである。

司令、艦長はじめ乗組員の皆様、誠にご苦勞様です。

任務達成を祈ります。

(本多副会長記)

護衛艦「むらさめ」帰国 出迎え

6月4日午後、補給支援特措法に基づく任務行動に従事していた護衛艦「むらさめ」(艦長小澤 豊2佐)が横須賀に入港した。



半田横須賀地方総監主催による

帰国行事は、秋元防衛大臣政務官、香田自衛艦

隊司令官、高嶋護衛艦隊司令官など各級指揮官等隊員、在日米海軍



司令部参謀長、杉本横須賀市副市長、家族など多くの出迎えの中、横須賀水交會は平野顧問ほか多数の会員が参加し、自衛艦旗、小旗及び水交會旗を掲げて出迎えた。

第1護衛隊司令 佐伯精司1佐指揮のもと、補給艦「おうみ」とともに、インド洋において各国海軍に対し補給支援活動をしていたが、先般出港した護衛艦「いかづち」及び補給艦「ましゅう」と現地で交代し、この度帰国したものである。

司令帰国あいさつ、防衛大臣政務官訓示、来賓紹介、祝電披露と行事は進められ、帰国の安堵感があふれるところであるが、凛々しい乗組員に頼もしさを感じられた。

「むらさめ」の行動は、新たな補給支援特措法が成立後、最初の派遣であったが、乗組員各位には、この任務行動を完遂したことを誇りとしていただきたい。

厳しい気象条件の中、長時間にわたる補給活動を繰り返し、また危険に襲われる恐れの中での整齐とした活動が出来る海軍は、わが海上自衛隊を含め世界中で数えるほどしかないといわれている。

高い練度を維持し、テロ撲滅の強い意思を堅持し、中東の安定に寄与し、国益にかなった長期間の任務行動に従事された乗組員各位に対し深甚の敬意と感謝を捧げたい。

ありがとうございます。ご苦勞様でした。

(本多副会長 記)

馬門山墓地墓前祭

第53回馬門山墓地墓前祭は、5

月17日(土)午前9時30分から10時の間、新緑の薫る横須賀市宮馬門山墓地(旧海軍墓地 横須賀市根岸町1丁目5番地)において実施されました。

墓前祭は、遺族関係者を始め、横

須賀市長、市議会副議長、海自横須賀地方総監部幕僚長及び各艦隊幕僚長等、主催6団体(横須賀水交會、隊友会横須賀支部、大津観光協会、大津地区社会福祉協議会、農洋会、大津地区町内連合会)の会員並びに

一般市民等約300名にのぼる多数の参加を得て厳粛に執り行われました。

主幹事は、前述の主催6団体が毎年持ち回りで努めており、今年は大津観光協会が主幹事を担当しました。横須賀水交會からは、長崎会長等20名以上が参列し心から哀悼の意を示し慰霊に努めました。



一同拝礼の後、国歌斉唱、増田大津観光協会会長及び蒲谷横須賀市長の追悼のことは、儀仗隊拝礼、献花、弔銃発射、最後に黙禱を捧げるという式次第でした。

なかでも

海上自衛隊の儀仗隊拝礼及び弔銃発射は節度と威厳に溢れ式典を引き締められており



当墓地には、軍艦「河内」、「筑波」の殉難者を始め、先の大戦の戦死者等1,592柱の英霊のほか一般市民も埋葬されています。

事後の主催6団体の反省会において、本年の墓前祭は、市長に初めて参加してもらうとともに近年では最も多い参加者であり、円滑に実施できたとの所見を得ております。また、会場までの勾配の急な坂道では、高齢者のための介添役として女性自衛官が支援しており、その爽やかさに多くの参加者から好評を博していました。(小島理事 記)

「海軍の碑」記念行事

海軍記念日の5月27日(土) 1200から1220の間、横須賀ヴェルニー公園内に在る「海軍の碑」の前において、平成20年度海軍の碑記念行事を実施しました。

本碑は、平成7年全国の海軍関係者及び有志からの浄財により建立されたものであり、記



念行事は、平成13年までは海友会が、海友会と横須賀水交會が共同した平成14年からは、横須賀水交會が毎年海軍記念日に執り行っているものであります。

当日は、快晴に恵まれ、横須賀水交會会員等約30名の参加を得て記念行事を執り行いました。まず、「君が代」の演奏により国旗及び軍艦旗の掲揚、その後、海軍戦没者に対して黙祷を捧げました。長崎横須賀水交會会長の挨拶に続いて、碑の建立委員長でもあった常廣元横総監に

よる日本海海戦直前(5月24、25、26日)の日本海軍及びバルチック艦隊の内情についての貴重な講話(次項)を頂きました。CDデッキの不具合により残念ながら鎮魂の譜は取り止められましたが、終始厳かに執り行われ短時間ではあつたが、海軍の英霊の追悼と永遠の平和を祈る記念行事でありました。

終了後、参加者は、記念艦「三笠」での記念式典へと向かいました。(小島理事 記)

【記念講話】

日本海海戦前夜

常廣元横須賀地方総監

前夜と
言っても、
24、25、
26の3日

間における日本聯合艦隊とバルチック艦隊の動きである。

1 先ず日本側の動きから



5月14日に仏印を出発したバルチック艦隊は、途中の情報で平均速力を調整しても24日には、何らかの情報が入る筈と考えられるのに、全く入ってこない。津軽海峡に廻ったのではとの疑念が頭を擡げてくる。同日夕刻次の封密命令を戦隊司令官以上に送付する。「明25日夕刻(時刻後令)津軽西口に移動する」と。戦闘待機部隊の第1及び第2艦隊の駆逐艦以上と第3艦隊の一部の移動で、残余の哨戒部隊は哨戒続行である。

25日午前、「三笠」長官公室で、司令官以上が参集、移動の打ち合せを行なう。その席上、第2艦隊参謀長藤井較一大佐(兵7期)のみが一人、1両日待つべしと強く反対し紛糾する。そこに送られて参集した第2艦隊司令官(第2戦隊)嶋村速雄少将(兵7期)が入ってくる。聯合艦隊参謀長加藤友三郎少将(兵7期)が、ずばり嶋村に意見を求める。彼もずばり27日まで待つべしと答える。東郷長官の信頼も厚い前参謀長である。東郷も在席していた筈である。会議は1両日待つことで散会となる。が、同日夕刻、軍令部に送られた予定電は明26日夕刻の移転で1日のみの延期であった。麾下部隊にも予定が告知される。

2 露側の動きである。

24日午前、上海沖50浬に到着、深夜まで、最後の洋上補給を行なう。この過荷重の搭載が装甲艦の命取りになるのであるが。明25日8時、用済みとなった輸送船等8隻を解放し、上海に送る。輸送船6隻は25日夕刻上海に入港する。

3 再び日本側

その情報を、三井物産上海支店長が、軍令部に通報する。鎮海湾に在泊中の「三笠」に届くのが、26日0005、司令部は大喜び、秋山参謀は小躍りしたという。バルチック艦隊は東支那海にいたかと胸を撫で下ろすころ。夕刻の転移取り止めである。

● ロジエストウエンスキー長官は、対馬接近を意識的に送らせ、あわよくば、日本側の北方転を

期待した節がある。台湾南方からの平均速度は5 Kt 未満の低速である。折角の企図も輸送船の上海送り、千俣の功を一気に欠く結果になってしまった。

もし、この上海送りがなかったなら。

聯合艦隊は、26日夕刻、鎮海灣出航、「信濃丸」の敵発見電受信は、27日7時頃、見島沖付近であろう。おっとり刀で取って返して、追いつくのが、同日(午後)4時頃、朝鮮半島南東端沖付近か。遠距離同航、向かい風で、太陽に向かったの射撃、日没までの数時間、果たして完全勝利は、というところであろう。

海兵7期の3人の活躍は、目を引く。この3人は大将になる。

26日の北転である。

巷間 東郷長官は、対馬来航に信念を持っていったという。とすると、たとえ上海送りの情報がなくても、土壇場で、北転取り止めになたかもしれない。それにしても、司令部内の意志疎通にやや疑問を感じさせられる。

いずれにしても、ロジエストウ

エンスキー長官の浅慮が日本側の危機一髪を救った幸運をもたらしたと言えるであろう。

忠魂碑前で慰霊追悼

大正3年10月11日、第1次大戦青島攻略戦における、海軍重砲隊の戦死者9名を弔った忠魂碑前(旧砲術学校そば山腹)で慰霊追悼行事が4月23日行われた。

5年前、横須賀水交会海野顧問ほか横須賀市などの関係者による調査に始まり、この度、米海軍横須賀基地副司令ランドクエスト中佐



参加した水交会有志
砲術学校跡(米軍基地内)

の配慮により、周辺の雑木を刈取り、碑を清掃し、階段を設置し慰霊祭を行うことが出来たものである。

円覚寺の僧侶8名による読経、参列者の焼香、献花が行われ、海野

顧問、佃顧問など水交会有志数名が参列した。

忠魂碑には「大正3年10月20日戦死 海軍2等水兵 山村与吉、大正3年11月3日戦死 海軍3等兵曹 中嶋久治、同 照井弥助、同 吉田子之助、海軍1等水兵 鈴木鶴治、同 桑野静、同 竹内染二、同 近松茂、同 平嶋清」と9名の名前が刻されている。また側面には「正木海軍重砲隊指揮官以下隊員建之 大正3年12月1日」とあり94年経過していることがわかり、二次大戦後は、ほとんど放置され、忘れられていたともいえます。

正木指揮官の孫の正木成虎氏(水交会会員)からも「国のために身を捧げた兵士の霊が浮ばれる。」との言葉があり、参列者は感慨深いものがあった。

史料によると、この海軍重砲隊は、常備部隊ではなく臨時に編成された部隊であって、その一半は海軍砲術学校の練習生からなされているとある。(本多副会長記)

さよならキティホーク

離日する米空母「キティホーク」への感謝と敬意を表すため、5月23日、日米ネービー友好協会及び横須賀商工会議所の主催により横須賀市内において、慰労会が行われた。キティホーク艦長ジェンキン大佐はじめ、士官、CPO、下士官等が招かれ、横須賀水交会として会長、各顧問、理事等多数が参加し、市民、海上自衛隊指揮官等総勢500人余による盛大な会合であった。キティホークは就役後47年にわたり、任務を遂行しているが、その後半の10年間は横須賀を母港とし、極東地域ひいては太平洋、インド洋全域にわたり行動した。特に9・11後のアフガニスタンのアルカイダ掃討作戦では特殊部隊等の投入の拠点となり作戦を遂行した。また、同艦は、日米安全保障条約の象徴的な存在であり、海上自衛隊との訓練演習にも多く参加し、日米防衛協力の向上に貢献した。太平洋、インド洋のいわゆる不安定の弧を縦横に活動した実績は、この地域の安全に多大の貢献をしており、この会を通じて、深甚の敬意と感謝を示した。

5月28日朝、キティホークの横須賀出港に際し、出港行事が行われ、木村外務副大臣、シーファーム米国大使、横須賀市長、赤星海上幕僚長はじめ多くの海



上自衛隊員、市民、水交会等関係者に見送られた。

8月には原子力空母「ジョージ・ワシントン」が交代して横須賀に入港するが、今後も変わらぬプレゼンスにより極東、太平洋等の安全に寄与されることと日米共同の絆的な存在を期待する次第である。

(本多副会長 記)

第16回横須賀水交会主催

ゴルフコンペ

若葉香る5月24日(水)、第16回横須賀水交会主催ゴルフコンペを、千葉房総半島中央にあるザ・鹿野山カントリークラブにて開催し、長崎会長以下29名のゴルフ愛好者が参加しました。

今回の

コンペも好天に恵まれ、参加者はそれぞれ腕を競い合っていました。天神、白鳥コースの2グループに分かれてスタートし、



ダブルペリア方式により競技しました。

優勝は前回に引き続き近藤義美氏が勝ち取り、2位出水克明氏、3位木谷正樹氏という結果でした。近藤氏の連続優勝には強すぎるという評もありましたが、これはあくまでも競技の結果であり若いわれわれが益々精進しなければと痛感した次第です。

ベストグロス賞には、シニアの部(65歳以上) 近藤義美氏がグロス75で、ジュニアの部(65歳未満)長

崎嘉徳会長がグロス78で受賞しました。会長のハイスコアには参加者や、参加しなかった外野の者からもヤラセではないかという一部噂が出ておりましたが、同組参加者からまさに実力であったと報告を受けております。

今回の参加者数は、各種行事・クラブも減少しています。次回からは他の行事の実施日等を早期に情報収集し、より多くの会員及び水交會を支援する方たちが参加できるように配慮していきたいと考えています。

(持永理事 記)

春の叙勲受賞者

4月29日 次の会員の方が叙勲を受けられました。(敬称等略)

- 瑞宝双光章 山崎保夫 (初谷副会長記)

訃報

本年3月以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略)

- 清水正巳 (海兵71) 3月4日

- 新貝源弘 (幹予10) 5月21日
 - 岡嶋宏一 (幹予32) 5月26日
- (本多副会長記)

新(編)入会員(3月〜6月)

次の方々横須賀水交會に新たに入会(編入)されました。(敬称略)

- 寺地 重告(幹候24) 日比野 臣二郎 (横鎮S18) 小島 英伸(幹候25) 山崎 正雄(幹候28) 石橋 啓志(幹候26) 門馬 達也(部内11) 持永 昇三(幹候25) 多田 潤(幹候28) 増田 拓治(幹候26) 津田 義徳(幹候22) 樋口 和則(航学24) 泉谷 博道(有志) 吉村 司郎(幹候27)
- (河村理事 記)

編集後記

7月号は内容が豊富で、投稿頂いた記事の一部を11月号へ掲載するよう計画しました。また、11月号及び3月号は記事が少なく、皆様からの投稿をおまちしております。

(岩永理事 記)

横須賀水交會ホームページ
<http://y-suikoukai.daa.jp/>